

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間	120分
-----	--------------	------	------

- ・友人との思い出を通して、人間関係の本質と言葉がもつはたらきと関わらせて述べた随筆からの出題。
- ・本文の分量は昨年度よりも僅かに減少している。すべて記述説明であり、設問数も五問と変化はみられない。ただし、解答欄の行数の合計は昨年度(18行)に比べ17行と1行減少した。
- ・本文の分量の微減、記述分量の微減はみられるが、総合的にみて、全体の難易度は、ほぼ例年並。
- ・昨年度同様、本文は文理共通だが、理系では文系で出題された問五がなく、全四問の出題となっている。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	西谷 啓治 「忘れ得ぬ言葉」(一九六〇年)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ やや減少 ・変化なし・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄3行) 「忘れ得ぬ言葉」という表現に注目し、他の設問との関わりも考慮して解答することが求められる。
		問二	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 傍線部前後の内容から、「罪」のなさと、「それ自身」の「罪」とを区別して説明することに留意する。
		問三	記述式	標準	傍線部の内容を説明する問題。(解答欄3行) 「世間知らず」の「以前に言われた」意味と「別の意味」との相違を明確にするよう工夫する。
		問四	記述式	標準	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) 「全く別」という表現に注意して、比べられているもの二つを明確に説明し分けることに留意する。
		問五	記述式	標準	傍線部に関わらせた趣旨の説明の問題。(解答欄4行) 「本当の人間関係」という本文文末の表現を視点として趣旨をまとめるのだが、傍線部の「生きているか死んでいるか」という部分の説明に工夫が求められる。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・評論であれ随筆であれ、文章の主題や筆者の主張を全体からの的確に把握するとともに、個々の文脈を丁寧にたどって正確に押さえる読解力が不可欠である。
- ・設問の意図を踏まえ、理解した内容を簡潔かつ的確に表現してみる訓練が欠かせない。
- ・今年度も、漢字問題は出題されなかったが、読解力養成の前提として、その知識の蓄積を怠らないこと。

国語(現代文・古文) 京都大学 文系学部 (前期) 2 / 4

<総括>

出題数	現代文 2題・古文 1題	試験時間 120分
-----	--------------	-----------

昨年と同じく、随筆からの出題となった。戦時下と敗戦直後の出来事を重ね合わせるように書いたレトリカルな文章で、旧仮名遣いということもあり、受験生はやや難しく感じたのではないか。設問は、何を書いたらいいかわからないという難問こそなかったが、問二など表現に関するものもあり、慣れていなければこれも苦労したと思われる。

<本文分析>

大問番号	□
出典 (作者)	石川 淳 「すだれ越し」
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・ 変化なし ・やや増加・増加)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・ 変化なし ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
□	随筆	問一 問二 問三 問四 問五	記述式 記述式 記述式 記述式 記述式	易 やや難 やや難 標準 やや難	傍線部の理由を説明する問題。(解答欄2行) 傍線部を説明する問題。(解答欄3行) 傍線部を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部の理由を説明する問題。(解答欄4行) 傍線部の内容を、前半部と関連させて説明する問題。(解答欄5行)

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・一昨年の文系□では対話文からの出題だったが、昨年と本年は随筆が出題されたことも踏まえ、評論や随筆を含め、できるだけ多様な文章に接しておくことが肝要である。
- ・問題に取り組む際には、文章の主題と絡ませながら筆者の考えや思いを本文全体から大きく把握するとともに、個々の文脈の趣旨を的確に読み取っていくことが肝要である。その上で、理解した事柄を〈簡潔かつ分かりやすく表現する〉といった訓練は欠かせない。

<総括>

出題数

現代文 2題・古文 1題

試験時間

120分

- ・平安時代の歴史物語『栄花物語』からの出題であった。
- ・有名作品からの出題は去年の『和泉式部日記』に続いて2年連続した。
- ・歴史物語からの出題は10年ぶりであった。
- ・漢文・漢詩は、三年連続なかった。
- ・昨年と同様本文に和歌があり、設問にも和歌の現代語訳が出題された。
- ・解答数は昨年と同じで五つであった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	『栄花物語』
頻出度合 ・的中等	有名作品
分量 前年比較	分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約880字 (前年は約590字)
難易 前年比較	難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
目	歴史物語	問一	記述式	標準	「適宜ことばを補いつつ」という条件付きの現代語訳問題 (1) 「公」「掟」「よりはさしまし」「仕うまつら」「むとす」の訳出がポイント。主体や対象を補うこと。(解答欄2行) (2) 「さすがに」「え」「まかりありか」「ぬ」「さぶらは」「ぬ」の訳出がポイント。「さすがに」の具体化と主体を補うこと。(解答欄3行)
		問二	記述式	やや難	条件付きの心情説明問題。「これにつけてもすずろはしく思されて、聞き過ぐさせたまふ」の伊周の心情を説明する。傍線部に至る有国の行為の内容と伊周の心情をまとめる。(解答欄4行)
		問三	記述式	標準	説明問題。「二位の命長さ、あはれに見えたり」の内容を説明する。「老少不定」という古文常識に関する内容を本文にあわせて説明する。(解答欄3行)
		問四	記述式	標準	「文中の和歌を、指示語の指すものを明らかにしつつ」という条件付きの和歌の現代語訳問題。「そのをり」「それこそ」の指示内容を具体化する。「まし」「ものを」「やがて」「けれ」の訳出がポイント。(解答欄3行)

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・今年も有名出典からの出題であったので、以前も出題されている『源氏物語』を代表とする中古の典型的な文章にも慣れておく必要がある。
- ・非有名出典からの出題もあるので、いろいろな時代・ジャンルの文章に慣れておく必要がある。
- ・今回も和歌の現代語訳が出題された。修辞はなかったが、修辞、現代語訳、内容説明など和歌に関する対策は必ずしておきたい。
- ・今年も出題されなかったが、漢文・漢詩の訳や意味の設問が過去に出題されているので、漢文を読む練習は必ずしておく必要があるだろう。
- ・現代語訳が出題されたが、人物の補い、指示内容の具体化などわかりやすい現代語訳が要求されている。本文全体の現代語訳ができるかどうか京大文系古文の根本である。文脈を踏まえた現代語訳の練習がいちばんに望まれる。
- ・心情説明もよく出題されているので、慣れておく必要がある。
- ・古文常識についても学習しておきたい。